自己紹介

最高の仕事をするために プライベートも大切にしています

片桐 衣理
（衣理クリニック表参道院長）

この度、『ほほづえ』同人会に入会させていただくことになりました。このような素晴らしいご縁を頂戴し、感謝しております。

私は、現在、エイジングケアを主とした美容皮膚科・内科の「衣理クリニック表参道」で院長を務めております。クリニック開設以降、患者様お一人お一人とともに、その方にとってのベストな治療法を考えつつ、ご提案してまいりました。

〝真の美しさ〟とは、外面的に留まらず、内面的な心身の健やかさを持ち合わせてこそのものであると考えています。そのため、体の内外両側からのエイジングケアを行うことを視野に入れ、医学部卒業後は内科医（循環器専門）となり、大学病院に勤務。一方で、皮膚科、美容外科の経験を積むと同時に、婦人科の勉強もしてまいりました。

治療のモットーは、「自らすべての施術を試し、本当に良いと納得できる効果のあるものだけを患者様にご提供する」。これは医師として当たり前のことではありますが、私自身、肌にトラブルや様々なコンプレックスを抱えていた経験から、自信をもってお勧めできるものを提案したいという気持ちが人一倍強かったからだと思います。また、常に心がけていることは、自然な若返りである「マイナス五歳の美しさ」です。

最高の仕事をするためには、プライベートも充実させ、私自身が心身ともに健やかな状態でなければならないと思います。私にとって、家族と過ごす時間は大きなパワーを与えてくれるものであり、大好きなワインやゴルフ、宝塚観劇などを楽しむことも豊かな原動力になっています。ワインにおいては、長年スクールにも通っており、二〇一〇年に「ブルゴーニュの騎士団」の称号をいただけたことは最大の喜びです。そして宝塚は、完璧なまでに美しく華やかな外観と所作の男女が、美しい歌と踊りとお芝居で、非日常感溢れる夢のような世界へ誘ってくれるのが魅力です。その陰には、涙ぐましい努力があることを目の当たりにして自分自身を叱咤激励し、常に精進していくことを若い方々から学ばせていただく機会も多々。

最後に、「エイジングケア＝女性が行うもの」というイメージが強かったように思いますが、最近では、欧米に続いて国内でも意識の高い男性のエイジングケアのニーズが高まっております。これからの日本を活気あるものにしていくべく、陰ながらお手伝いをしていく所存でおりますので、皆様ご指導のほど宜しくお願い致します。

（かたぎり えり）

（プロフィール）
東京都出身。衣理クリニック表参道院長、衣理クリニック・グループ ベトナム院総院長、美容皮膚科・内科医（循環器専門）、日本内科学会・日本美容外科学会・日本抗加齢医学会評議員、ドクターズコスメ「イースペシャル」プロデューサー。
趣味は、ゴルフ、宝塚観劇、ワイン、グルメ、旅行など。二〇一〇年、「ブルゴーニュの騎士団」の称号を受ける。